

平成30年度
入試問題大学
公募制推薦入試
小論文大学
公募制推薦入試
教養 (国語)大学
公募制推薦入試
教養 (英語)大学
一般入試
(国語)大学
一般入試
(英語)大学
一般入試
(数学)短大
公募制推薦入試
小論文短大
公募制推薦入試
教養 (国語)短大
一般入試
(国語)

記入上の注意

記入例

ひむこ学院大学短期大学部 平成三十年度 一般入学試験 (国語)

※設問で指示をした字数は句読点等も含みます。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「三」の子の魂百まで」といいますが、絵を描くことを仕事にしている、大原美術館、そしてフランスやイタリアの美術館をたくさん見てきた今も、子どもの頃見た絵を大切に思います。

須田 寿 (一九〇六―二〇〇五) (立教大学の先輩)「美術に上下の区別なし」という言葉は、思い出すたびに心も動かされます。上手下手、いい感じかどうかということはあるにしても、絵を描こうという志に上下の区別はないのです。

絵を描き、美術館は出品したりしていると、とかく、a. カンペンや玩具のメンコの絵や、昔のマッチのレッテルの絵などを低く見る嫌いがあります。ところがどうでしょう、昔のマッチのレッテルのような絵を創作的に描くことができる人は少ないか、ほとんどいないと思います。

絵を見たからといって、腹の足しになるわけではありませんが、美術館の絵の前で一人であそんでいる時間は、きつと心の中が満たされているのではないか、その意味で、腹の足しにはならなくても、心の足しになるのだと思えます。

絵に比べてテレビは、動いたり、しゃべったりして、見るものに疑う隙を与えません。でも、(一)絵は、動かないし黙っていることには意味がありそうです。見る人が働きかけなければ、絵は何もありません。だから絵や文字は「(二)沈黙劇」の相談相手になるのです。

動かない絵を見るときは、(b)「センニュウカン」をなくし、自分の目で見、自分の頭で考えながら見るのが大切だと思います。結婚の相手を選ぶとき、人の意見だけで決める人はいないのに似ています。他の人がいいと言っている絵が、自分には納得できないことがあっているのです。

絵は、絵とそれを見る人との共同作業で、そこに「ふつう」「美しい」と言っているところの「世界を広げているのだ」といえます。人が、美しいものに反応する感覚は、自然から生んで育つこと他に、絵を見ることの経験によっても磨かれるのだと思います。

昔、絵の入門書を読んでいたころ、どの本にも「絵とは美をあらわすものだ」と、まるで押しつけたように書いてありました。

その言葉は呪文のようにわたしを脅かしました。(2) 美とはどういふものなのか、それさえ分れば絵ができるのなら、それが知りたいたいと思いました。たしかトルストイに「美はあらわすことではできません。定義することはできない」という言葉があり、それも心に残っています。では何か分かったかという、何も分かりはしませんでした。

「美」という言葉は便利ですから、非常によく使われます。しかしあいていて、人を煙に巻いてしまう魔法があります。自分にもはまり分らないとき、「美しい」という言葉で、自分を「まかしているおれ」があります。

では「美」とは何か、どういふものか、これは大学で学ぶ「美学」といふものがあるほどの大テーマです。簡単に言えませんが、それが知りたくて読んだ岸田劉生 (一八九二―一九二九)の『美の本体』(講談社芸術文庫)という、むかしよく読まれた本があります。その中で、「美しい」と「きれい」とはちがうのだという一行だけが印象に残っています。その言葉のためにある本のようなものでした。「きれいなもの」もいけれど、そのうち飽きてきます。いつまでも、あるいはいつか見ても心に響くというところは少ないでしょう。

その本が文庫本になっていたの、最近読み直して、若いときに、こんな難しいものをよく読んだなと思いました。そして、「絵を描くは美の使徒である」という言葉に出会って少し苦笑しました。それは自分でそまじい聞かせて、自分を撃り立てているのだと、好意的に読むことはできました。絵描きが「ほくは美の使徒」と言うのは自由だけれど、他人が言うのであれば「(三)個性性」がありませぬ。

今はどうか知りませんが、旧ソ連では、絵描きであることが尊ばれたそうです。ただし、体制的でないといけません。……ともかく、「あの人は芸術家だから」とか、「あの人はパレリナだから、配給より少しはよいに食べさせてやらないとかわいそうだ」ということがあったといえます。ニューヨーカーのためのマンションといふのがあります。職業はみんな平等なのに、アーチストと名のつく仕事についている、たよは義務教育の教科の中から、美術の時間が無くなるか、もしくは減らされています。国策として科学的意見を願う時代に、「美」などは「(四) 迂闊な」ことのように思われ、直接コンピュータの教育を徹底すれば足りる、と考えられているようですが、わたしにはそう思えません。科学的にも、芸術的にも「美しいものを創造しよう」とする感性と(五) 鋭敏な努力

短期大学部 一般入試 (前期) 「国語」 (2)

募集定員
入試スケジュール

AO入試

指定校制
推薦入試

公募制
推薦入試

自己推薦入試

一般入試

センター利用入試

社会人入試

外国人
留学生入試

編入学試験

受験上の注意

出願手続

合格発表
入束手続
入学辞退

学費

奨学生制度

Q&A

平成30年度
入試問題

大学
公募制推薦入試
小論文

大学
公募制推薦入試
教養 (国語)

大学
公募制推薦入試
教養 (英語)

大学
一般入試
(国語)

大学
一般入試
(英語)

大学
一般入試
(数学)

短大
公募制推薦入試
小論文

短大
公募制推薦入試
教養 (国語)

短大
一般入試
(国語)

記入上の注意

記入例

が兩種となって、新しい(シ)キヨウチを開くのです。努力は念のためであつても、その努力を続け得るのは、美しいものに魅せられる感性のためです。そんな意味で(三)「美術教育の時間が減らされたことは惜しまれませぬ」。

「(4)『美しい』と『きれい』とはちがう」……これは煩瑣すべきことでは。『きれい』というのは『汚い』の反対語ですが、『美しい』というのは(オ)醜態な部分までも含んでいます。Ⅰ「グリュネーネヴァルトの作になる、コルマール(フランス)の教会の祭壇画に描かれたキリストは、目を覆うほどおでこや腫れ物で覆われています。Ⅱ「金光の『二麻呂』という詩も、人間が死んで腐乱して行く、大自然の(シ)カゲをたたえ、カゲをたたく詩として歌っています。このように一見したところは醜態なもので、心を打たれずにはおられませぬ。満開の桜も美しいけれど、秋の枯葉の褪せた色も美しい。Ⅲ(シ)「花はさかりに、月はまなきをのぞくものか」(徒然草 第三七段 吉田兼好)というのは(シ)「このこと」です。

「美しい」と感じる感覚は、一口にいうと、心を動かされることです。自然や芸術作品に、人の心を動かすだけの力が無くてはかたいませんが、それを見る人の感性のありかたというものがあつて、思ひます。「きれい」なものを動かされても悪くはありません。しかしさらに深く覗きかけて、見る者が「美しい」を見つけて出すこともあるわけです。Ⅲ「美」という(カ)「厄介」なものは、対象に備わっている美しさというより、むしろそれを見る自分の感性の責任でもあるといえます。

(安野光雅『絵のある人生』岩波新書)

問一 傍線部(ア)～(ド)のカタカナを漢字で書きなさい。

- (ア) カンパン (イ) センニユウカン (シ) キョウチ (ド) カナイ

問二 傍線部(ア)～(カ)の漢字をひらがなで書きなさい。

- (ア) 沈思黙考 (イ) 信憑性 (ウ) 迂遠 (エ) 執拗 (オ) 醜態 (カ) 厄介

問三 傍線部(一)「絵は、動かぬし黙つて、いるところに意味がありそうです」とありますが、どのような意味があるのか、文中の言葉を用いながら六十字以内で答えなさい。

問四 傍線部(二)「美とはどういうものなのか」とありますが、トルストイは「定義することはできない」と言い、筆者も「あいまい」という表現をしています。それは美がもつどのような特徴からくるものと考えられますか、文中の言葉を用いながら六十字以内で答えなさい。

問五 傍線部(三)「美術教育の時間が減らされたことは惜しまれませぬ」とありますが、その理由として最優先なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 科学的発見を顧う時代に美術教育は関係がないが、教養を高めるうえで大切だから。
- イ 科学的にも、芸術的にも美しいものを創造することは大切だから。
- ウ 科学的にも芸術的にも美しいものを創造する感性と執拗な努力のどちらも必要だから。
- エ 科学的発見の努力も大切だが、心のゆとりも大切だから。

問六 傍線部(4)「『美しい』と『きれい』とはちがう」とありますが、「美しい」と『きれい』はどこがちがうのですか、五十文字以内で答えなさい。

- ア やはり イ なるほど ウ まるで エ また オ そして カ つまり キ たとえば

問七 []に入る最適なものを選び、それぞれ記号で答えなさい。

短期大学部 一般入試 (前期) 「国語」 (3)

問八 傍線部(シ)「花はさかりに、月はまなきをのぞくものか」とありますが、その意味として最優先なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 桜の花は満開で、しかも月が満月の時に見えるのが一番美しい。
- イ 桜の花は満開のときばかりを、また月は満月のときばかりに見るものだろうか。いや、そうではない。
- ウ 桜の花は満開だけ、花見の時は満月はかりとは限らない。
- エ 満開の桜の花を見るのは美しいけれど、月は満月のときばかりを見るものだろうか。

問九 傍線部(ロ)「このこと」とは何をさしているのか、文中から適切な表現を抜き出して答えなさい。

〔ロ〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

二作目は期待が大きくなる。『火花』があれだけ話題になればなおさらだが、本書がより広い読者を求めて書かれていないことに、まず驚いた。「恋愛小説」という帯文は誤りではないが、気持ちの行き違いや性格が合う合わないといった話ではない、もつと本質的な何か、人間の芯を成しているものがむき出しになり、ぶつかるさまが扱われる。

とは言え、主人公の恋人・沙希は他者とぶつかることのない穏やかな人柄だ。相手の気持ちを察して振る舞う「おなじ速度で歩いてくれる」人。「演劇以外の方法で生きて行くことが不可能」と思ひ込む「僕」の才能を無条件に信じ、応援する人。こういう人間に愛されるのはおそろしい。ぶつかって喧嘩する以上のこわさだ。(ア)無垢さ、純粋さ、繊細さ、思いやり、感情に忠実な点など、彼女の美質のすべてによって「僕」の醜さが醜態とされ、「(イ)臆病な性根、がむさきたしになる。

「創作に向き合う時に沙希の存在をうとましく感じてしまつた。沙希が僕を氣遣つて話すのを止めた時、その静けさはとても大きな音として僕の神経を過なでするようになった」

彼女(シ)キヨドウが自己のいたらないさまを映し出す鏡となつたのだ。

かたや、「僕」のことを「一番?」いってわかっている」と言つてははからない沙希は、自分は凡人と思ひ、言葉で世界を察しようとする。自意識や気負いや嫉妬の泥沼であつて「僕」のありように「(イ)なるものを感じ」とつづける。

思はば、『火花』にも聖と俗というテーマがあつた。主人公の師匠は世間の共感を求めず己に挑戦しつづける、俗の対極にいるような人物。「狂つたような優しさ」をもつ沙希の姿がこの師匠と重なる。どちらにもかなわないと思わせる過剰なものがある。その過剰さは、自己愛と表裏一体の「僕」のそれとほら、捨て身であるがゆえに、「僕」を鋭くえぐらずにいらぬのだ。

「演劇がもたらす苦しみによって生きていく」と言うほど表現に切実なものを感じている男の、恋愛を介した自問自答であり、作者の性さがに触れた古風さと普遍性を併せ持つ。著者にとつてもこのテーマこそが切実なのだ。

(『書評』又吉直樹著「劇場」『大竹昭子』読売新聞2017年6月24日付)

問一 傍線部(ア)～(イ)の漢字をひらがなで書きなさい。

- (ア) 無垢 (イ) 臆弱

問二 傍線部(シ)のカタカナを漢字で書きなさい。

- (シ) キヨドウ

問三 []に入る適切な漢字二字を、本文中から抜き出して書きなさい。